

サーサナ

第50号 仏暦2563（西暦2020）年11月17日

善悪の問題

「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや。」

これは有名な歎異抄の第三条です。「善人でさえ極楽浄土に往生できるのだから、悪人ならなおさら往生できる」と、親鸞聖人はおっしゃいました。これを「悪人正機」といって、悪人こそが阿弥陀仏の救済のまさしく対象である、という教えです。

これは昔から論議の的になってきました。一部には、この教えを曲解して、「どんな悪事をおこなっても平気だ」とか、「すすんで悪をおこなうべきだ」という異端説も登場したため、いろいろと困った事態が生じたのは事実です。もちろん親鸞聖人は、殺人や強盗などの悪事を勧めたわけではありません。人間の奥深くに根ざした煩惱・欲望よりして、すべて人間は罪をつくらざるを得ないこと、そしてその罪を自覚したことにおいて阿弥陀仏の救済が成り立つことをいっているのです。罪惡を毒に、阿弥陀仏の救済を藥にたとえて、「藥あり毒をこのめ、とそうろうらんことは、あるべくもそうらわす」（藥があるのだから毒を好んで飲め、などとはあるはずもないことだ」と、聖人は注意しています。

考えてみますと、何が善で何が悪か、明確な基準をもって判断し、かつ悪を行わないようにすることは至難の業ではないでしょうか。例をあげます。「情けは人のためならず」ということわざがあります。本来の意味は、「他人に情けをかけて、困った時に助けてやれば、めぐりめぐって自分が困った時に助けてもらえるものだ。だから、日頃から情けをかけるようにするのは、他人のためというよりも自分のためになることだ」というのです。しかし、このことわざを「何でもかんでも同情して助けてやるのは、相手の依存心を助長して良くない、他人のためにならないことだ」と解釈する人が、特に若い世代では多くなっています。しかし後の解釈をいちがいに間違いとは言い切れない、と私は思います。かつまた、前者の（本来正しいとされている）解釈では、情けをか

けるという一見正しい行いの動機が、実は「自分のため」だった、という自分本位の発想に由来しているとすれば、これをはたして純粋な善であると言い切れるでしょうか。

ここから話を大きく社会倫理や政治経済にまで広げてみますと、より複雑なことになります。例えば死刑はどうでしょうか？殺人が悪ならば死刑も殺人だから悪だ、となります。だから死刑には反対だという主張がありますが、その一方で、殺人は悪だから、悪を犯した者を殺すのは悪ではない、という主張もあり、どちらにも言い分があることです。（真宗教団では死刑制度には反対という立場をとっています。）

では、双方が対立した場合にどうするのがよいのでしょうか。まず言えることは、声高に正義を主張することは、自分の主張に賛同しないものはやつつけろ、という考えになりやすい、ということです。何も主張しない、何も反対しないのがよい、ということではありません。自ずと節度を保った主張、そして相手の言い分に耳を傾けることが大切だろうと思います。

「我必ず聖に非ず。彼必ず愚かに非ず。共に是れ凡夫ならくのみ。」（十七条憲法）とあるように、自分も他人もすべて凡夫である、という自覚があれば、争いのない社会が可能です。逆にいえば、平和はそのような自覚がないところには決して成立することはないでしょう。

法要行事について

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。



十二月 成道会（じょうどうえ）

約2500年前、北インドでお釈迦様がすとりを開かれ仏陀となりました。12月8日、35歳のときであったと伝えられています。お釈迦様のすとりから仏教は始まりました。私たち仏教徒にとって最も神聖な記念日です。

今回、教心寺本堂に掲げた釈尊絵伝を、住職が絵解き（解説）をします。この絵は、インド・サルナートの初転法輪寺の本堂壁画を描いた野生司香雪画伯が、1959年に7枚の連作として描いたもので、初転法輪寺の壁画と同様に、美しい色彩が目をひきます。その原作を仏教伝道協会が保存しており、同協会ではこのたび、最先端のデジタル印刷技術と画像処理技術を駆使して、新たに複製画を制作しました。当寺に飾ってあるのはその複製画です。

- ❖日 時 12月8日（火）午後1時～2時半【午後0時半から受付】
- ❖内 容 勤行（和文仏教聖典読誦・正信偈同朋奉讃）・釈尊伝絵解き
- ❖持ち物 『和文仏教聖典』『正信偈同朋奉讃』（または『真宗大谷派勤行集』）
- ❖記念品 和ろうそく

※オンラインで参加することができます。詳細はお問い合わせ下さい。

十二月 門徒総会

上記成道会に引き続き、門徒総会を開催します。この一年間の活動報告及び今後の活動計画についての話し合いをします。皆さまのご意見をお聞かせ下さい。（忘年会はございません）

一月 修正会（しゅしょうえ）

修正会とは、新年を祝い、また求道の決意を新たにするための法要です。家族揃って、初詣を兼ねて本堂にご参拝ください。

- ❖日 時 1月1日（金）午前10時～11時【午前9時半から受付】
- ❖内 容 勤行（嘆仏偈・和訳正信偈）、年頭法話
- ❖持ち物 『和訳正信偈』『真宗大谷派勤行集』
- ❖記念品 鏡餅（お子さんには菓子袋）

ユニセフ募金

10月27日、皆様からお預かりした浄財14,820円を公益財団法人・日本ユニセフ協会へ振り込みました。累計では283,854円になりました。

また、「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃懇志金」として皆様からいただいた浄財から、NPO法人フローレンス、およびNPO法人カタリバに対してそれぞれ5万円ずつを寄付金に宛てさせていただきました。

皆様のご協力に感謝申し上げます。

会費の納入について

会費の期限切れの方は、更新をお願いします。皆様の納入年度は封筒宛名シール下部に記されています。1年で1000円ですが、事務軽減のため、複数年を納入していただけるとたすかります。

郵便振替00880-4-68473「教心寺」、または現金手渡しで。

年忌法要

来年（2021年）は没年が下記に相当する方の年忌になります。

1 周忌	2020年（令和2年）	< 2 7 回忌 >	1995年（平成7年）
3 回忌	2019年 （平成31年/令和元年）	3 3 回忌	1989年 （昭和64年/平成元年）
7 回忌	2015年（平成27年）	< 3 7 回忌 >	1985年（昭和60年）
1 3 回忌	2009年（平成21年）	5 0 回忌	1972年（昭和47年）
1 7 回忌	2005年（平成17年）	< 7 0 回忌 >	1952年（昭和27年）
< 2 3 回忌 >	1999年（平成11年）	1 0 0 回忌	1922年（大正11年）
2 5 回忌	1997年（平成9年）		

大谷派儀式条例に定める年忌は、1・3・7・13・17・25・33・50・100、およびそれ以後100年毎、となります。しかし地域によってはく　　>内やそれ以外の年忌法要を勤める場合があります。

- ❖御自宅で開催の場合、駐車場の確保をお願いします。
- ❖僧侶が袈裟衣を着替えるためのスペースを用意して下さい。
- ❖勤行本（正信偈同朋奉讃）を人数分用意してください。足りない場合は当寺に必要部数をお伝え下さい。
- ❖開催の前日までに、仏具のおみがき、お内仏の清掃をしましょう。
- ❖教心寺本堂で開催の場合、使用料として1万円をお願いしています。

コロナ禍での法要について

年忌法要に親戚を呼びたいけれども躊躇する、という方が多いと思います。当寺では今年数件のオンライン法要を試みて、ほぼ問題なく執行できています。Zoomというビデオ会議用のアプリケーションを用いることで、本堂と遠隔地の御親戚宅を結び、いっしょに勤行すること、顔もあわせて会話することもできます。詳細についてはご遠慮なくお尋ね下さい。

真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弍（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 F A X：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>
